

さといも(品種:ちば丸)

山武農林振興センター

1 地区名(集団名)

山武郡芝山町高田 (J A山武郡市二川園芸部里芋部会)

2 栽培戸数、面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数 1
- (2) 栽培面積 30 a (ちば丸50株)
- (3) 収穫量又は出荷量 10 a換算収穫量 1,870kg
- (4) 出荷先又は販売方法 本年は試験栽培のため、出荷無し

3 ちばエコ基準達成状況

区 分	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬(成分回数)	1回	5回
化学肥料(窒素分量)	6.4kg/10a	9kg/10a

4 事例のあらまし

J A山武郡市は「環境創造型農業」を掲げ、エコファーマーの取得や米や野菜など多品目のちばエコ農産物の生産に取り組んでいます。

さといもについては、以前から全農の「もっと安心農産物」としてJ A山武郡市の統一栽培暦により、ちばエコ栽培を行なってきました。

平成20年より種芋配布が始まる千葉県育成品種のさといも「ちば丸」を導入するにあたり、さといものちばエコ栽培ほ場内に組み入れて試験栽培しました。地上部防除については、性フェロモン剤(「ちばエコ農業」化学合成農薬に含めない農薬)の利用により、さといもの主要害虫であるハスモンヨトウの防除を行ないました。

その結果、慣行品種(土垂系・善光寺)に比べ収穫量はやや低く、イモの腐りもありましたが、丸い形状の特性を有する「ちば丸」の正品としてのL級比率及び出荷可能な数率は高くなりました。

5 背景・動機

芝山町高田地区は、非散布型の農薬として性フェロモン剤(難防除害虫の交信かく乱剤、誘殺剤)による広域共同防除を行なっています。高田地区難防除害虫防除組合として、生産団体や様々な作物が混在する中、3年前より地域一体となって取り組んでいます。

チョウ目害虫(蛾)に効果のある性フェロモン剤の活用により、J A山武郡市は、に

んじん、さといも等のちばエコ栽培が実践されています。現在、主な輪作体系が「すいか+にんじん」の畑作地域においては、土壌病害が問題となっています。すいか、にんじんに加わる作物として、さといもが見直されてきています。今後のさといもの安定生産販売を目指すため、次年度より栽培が本格化する千葉県育成品種の「ちば丸」の品種特性の把握とちばエコ農産物としての試験栽培を取組みました。



収穫前のちばエコ栽培のさといも



生育中のちば丸（支柱の畦）
左右は土垂系（大野、善光寺）

6 栽培方法

J A山武郡市の「もっと安心農産物」統一栽培暦に準じ栽培しました。

(1) 土づくり

小豆カスを素材としたたい肥を4月18日に1,500kg/10a施用しました。

(2) 植付

110cmの透明マルチを使用し、1ベット2条植えの株間90cm×畦間65cmで植え付けました。

(3) 施肥

J A山武郡市の「もっと安心農産物さといも（土垂）」の統一栽培暦に準じ、基肥の窒素成分は有機100%の肥料を使用しました。

(4) 本圃での管理

植え付け後、7月のマルチ除去までの管理としては、通路の中耕による除草を行ないました。

その後、マルチ除去とあわせて追肥、土寄せを行ないました。地上部の害虫防除は、7月25日にフェロディンSLを2個/30aに設置しました。



植え付け後、50日後の生育状況

ア 栽培管理

作業名	実施年月日
前作収穫終了	平成19年 3月 1日
起 耕	3月10日
施 肥	4月18、19日
マルチング	5月 1日
植 付	5月 6日
マルチ除去・土寄せ	7月 8日
中 耕・土 寄 せ	7月24日
か ん 水	8月21、31日
収 穫 開 始	11月14日
ちば丸収穫	11月15日
収 穫 終 了	12月 2日

イ 使用資材

(ア) 土づくり・施肥等

(10 a 当たり)

使用銘柄 (N:P:K)	実施年月日	施用量	全 N	化学N
堆 肥	平成19年 3月10日	1,500kg		
有機アグレット (6:7:9)	4月19日	120kg	7.2kg	
苦土重焼燐 (0:35:0)	4月19日	40kg		
マルチサポート2号	4月19日	60kg		
燐硝安加里S604号 (16:10:14)	7月 1日	40kg	6.4kg	6.4kg

(イ) 病虫害・雑草防除等

使用農薬	対象病虫害	実施年月日
ネマトリンエース粒剤	ネグサレセンチュウ	平成19年 5月 1日
※フェロディンSL	ハスモンヨトウ	7月25日

※印は、「化学合成農薬に含めない農薬」

7 今後の展望等

ちばエコ栽培での今回の試験結果では、慣行品種（土垂系・善光寺）に比べて、分球イモの腐り（乾腐病）とコガネムシの幼虫による食害跡が散見し、収穫量はやや低くなりました。一方、ちばエコ農産物基準内で栽培した別の試験ほにおいては、10 a 換算値で収穫量3 t、A品のM以上の等級率が30%を超えるほ場もあり、栽培ほ場による差が生じました。

今年は例年に比べ生育期間が高温乾燥となり、地上部の害虫が多く発生した年でしたが、性フェロモン剤のみの使用にもかかわらず大きな被害はありませんでした。しかし

ながら、土壌病害虫においては、慣行品種に比べやや弱いという傾向がありました。次年度の栽培計画においては、土壌病害の対策（土壌消毒、種子消毒）と土寄せ（培土）時のコガネムシ防除（粒剤の株元混和）を加えた防除体系の検討が必要です。

現在、県育成品種さといも「ちば丸」の生産販売においては、県および大規模な生産予定の農協、関係団体による生産販売推進協議会が設置され、ブランド化に向けた取り組みが行われています。

ちばエコ農産物の販売は、現在その特徴を生かした有利販売が行なわれているとはいえない状態です。県としてもちばエコ農産物の広報活動を積極的に行なっているところですが、まだまだ生産者が納得できる有利販売ができていないところです。今後、生産者ならびに生産組織、関係機関の連携により、更なる安心・安全な農産物の提供を目指し、消費者と生産者を繋ぐ生産、販売活動および支援が必要です。